

よりレベルの高い教育をめざします

城北中学校

〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1 ☎(03)3956-3157 FAX(03)3956-9779
ホームページ <http://www.johoku.ac.jp>

校長 小俣 力

男子校



教育方針

深井鑑一郎先生、井上源之丞翁両創立者の提唱した建学の精神を堅持し、青年期の人間形成と大学進学指導の徹底が本校教育方針の二本柱であります。

人間形成においては、「着実・勤勉・自主」の校訓の実行を目標として有為なる青年の養成をめざし、広々とした校地・諸施設・緑豊かな環境を最大限に活用して、学習・課外活動の両面から自立的な人格の形成を図り、各自の個性伸長を努力目標とし、実社会においてリーダーシップを発揮できる力を養います。

中高一貫教育の実践

平成16年から中学7クラス、高校9クラス編成による中高一貫主体の体制になりました。この一貫教育は、本校独自の3期指導体制のもとで進められています。最初の2年間を基礎期、つぎの2年間を錬成期、最後の2年間を習熟期として3期制をとり、通常の中学・高校とは異なる編成にしています。

英・国・数の主要科目については授業時間を増やし、基礎期では中学各教科の基礎力と応用力を身につけます。錬成期の中学3年にあたる時期から高校の教科内容の学習に入り、習熟期になると各自の適性に合わせた多様なカリキュラムの下で、志望大学をめざします。また、音楽、美術など情操教育や課外活動のための施設、行事も充実しています。

豊かな学園生活のために

本校は35,000m²の校地に32,000m²におよぶ全館空調完備の中学棟、高校棟を構え、その中に充実した特別教室、大小16のゼミ室、理科フロアー、進学センター、図書館などを備えています。また、 commonsペース等の生活スペースのゆとりも重視したものとなっています。25m7コースの室内温水プール、バスケットコート2面のメインアリーナ、卓球場、トレーニング場、体育館としても機能する多目的ホールなど体育施設面も充実しています。さらに放送スタジオ、最新機材の整った視聴覚室、昨年度、各教室に65インチ大型モニターが設置されました。

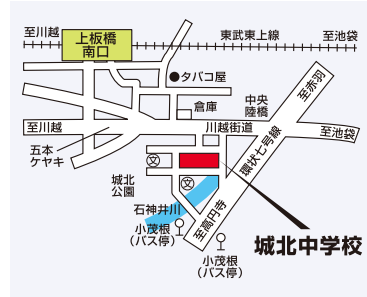


受験生へのメッセージ

中学・高校時代は、子供から大人に脱皮する時期です。親の保護の下にある自分ではなく、何事に対しても自分が主役となれるよう、社会性や創造性、人間性を高め、正しい判断ができたり、責任を自覚できるようにならねばなりません。

本校の校訓である「着実・勤勉・自主」はそれらの実現のために、各自がしっかりとげんていく目標を示したものです。

積極的に自己の可能性、創造性をはつらつと追求していく生徒集団。これが本校の求める生徒像です。そうした城北で自分を磨いてみませんか。



- ・東武東上線「上板橋駅」南口下車 徒歩10分
- ・東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原駅」下車徒歩20分

学校を訪問してみよう!

学校説明会(要予約)

- 9月16日(土) 13:30~
- 10月7日(土) 13:30~
- 2月24日(土) 13:30~
- ※小学4・5年生対象

入試説明会(要予約)

- 11月23日(祝) 10:00~
- 12月2日(土) 13:30~
- ※両日とも同じ内容です。

クラブ公開(要予約)

- 10月28日(土) [受付]12:55~
- 活動の見学と体験参加

体育祭(見学は自由)

- 9月9日(土) 8:30~
- ※雨天順延

文化祭(見学は自由)

- 9月30日(土)・10月1日(日)
- 「受験相談コーナー」設置

募集要項(平成30年度)

	1回目	2回目	3回目
募集人数	約115名	約125名	約30名
試験日	2月1日(木)	2月2日(金)	2月4日(日)
願書受付	1/20~1/30	1/20~2/1	1/20~2/3
	※全日程インターネット出願		
試験科目	国語・算数・社会・理科		
合格発表	2月1日(木) 19:00	2月2日(金) 20:00	2月4日(日) 19:00
入学手続	2月4日(日) 14:00	2月4日(日) 14:00	2月5日(月) 16:00

特別企画

安田教育研究所



安田 理先生の学校探訪!



城北はオーソドックスな学校である。外から見てみると、際立った特色があるわけではない。入試もほとんどいじらないから、話題に上りにくい。が、クラブ活動も行事も盛んで、人間形成も、学習・進学指導もしっかりしている。欠けているところがないだけに、優れているところも目立ちにくい、そんな印象である。そんな城北に2つの新しい取り組みが生まれている。



校長 小俣 力



ICT教育 男子校のトップランナーに

新しいタイプの共学校に比べると、男子校は新しいことへの取り組みが鈍い。男子校はどうしても大学合格実績で選ばれるので、教員もなかなか教科学力中心の学力観から抜け出せないでいる。

そうした中で、城北は一昨年からICTに力を入れることに踏み切った。

・平成27年7月 教職員にセルラー型iPadAir2を配布。

・平成28年3月 校内100か所に無線アクセスポイントを設置

8月 普通教室全教室に65インチの大型モニターを導入

9月 生徒用セルラー型iPadPro160台を導入

・平成29年4月 iRoom(タブレットを使ってグループ学習がしやすい形状の机が置かれている)完成
といった具合に着々と進めている。

●主体的、クリエイティブな姿勢をつくるのが目的

そもそもICTに取り組もうとした狙いは、小俣校長に何うと、

・ワクワク学んでほしい

・クリエイティブに活動してほしい

・様々な問題解決に積極的にチャレンジしてほしい

・共に学ぶことの楽しさを知ってほしい
ということにあるという。

●短期間でICTスキルが向上

iRoomはそのための専用の教室だが、iPad50台を入れた移動式キャビネットが

あり、他の教室でもiPadを使った授業が行えるようになっている。そもそも城北の場合はiPad自体がセルラー型なのでどこでも使えるというメリットがある。

いまでは講師を含む全員がiPadを所有。職員会議も情報を共有でき

ているので、ペーパーレス化ができていくという。

ICT導入の中心的役割を果たしている清水先生に聴くと、ロイロノート、ドロップボックス、クラッシーなど、授業案作り、生徒の情報管理などそれぞれに適した専用アプリが既にみな導入されていた。

偶々のぞいたiRoomでは1人の生徒がネイティブにパソコン上でエッセイの添削を受けていた。

わずかな時間の見学であったが、短期間で教員も生徒もICTスキルが急速に向上していることが見て取れた。

グローバル化への 取り組みも加速

●イングリッシュ・シャワー

期末試験休みを利用して、中1~高1の希望者を対象に「城北イングリッシュ・シャワー」(国内留学)を行っている。7月が中3・高1、12月が中2、3月が中1である。

5~6名の生徒にネイティブ講師が1名ついて、3日間英語漬けの日々過ごす。各学年とも150名~180名が参加するというから、城北生の英語熟度はなかなかのもの。最終日には全員が英語でのプレゼンテーションを行う。

●オーストラリア海外研修

これはなんと30年以上も前から続いている。城北のグローバル教育の歴史は、「グローバル化」が言われるはるか前から行われていたことになる。

中3・高1の希望者対象で、15日間のホームステイながらの語学研修。大学で授業を受けるだけでなく、企業や小学校を

訪問するなど異文化交流の機会がふんだんに用意されている。

貴重な機会を無駄にしないために、事前・事後研修をきちんと行うところがまじめな城北らしいところだ。

毎年70~80名もの生徒が参加している。これまで長い間、西海岸のパスで行っていたが、直行便がなくなったため、今年からゴールドコーストに変更になった。

●イングリッシュ・テーブル

毎週月・水・金の週3回、ネイティブ教員と昼食を食べながら英語で話す「イングリッシュ・テーブル」も、男子校では珍しい取り組みだ。

因みに城北は6名ものネイティブ教員がいるという恵まれた環境。

以上のように、城北は「国際教育委員会」という組織をつくり、近年グローバル教育に大変力を入れているのである。

グラウンド、施設が自慢

ここまで新しい動きについて述べてきたが、城北の定番と言えばやはり広大なグラウンドと各種施設。

グラウンド以外にテニスコート4面がある全天候型舗装コート、ソフトテニス用オムニコート、さらには弓道場まである。屋内も、体育館、温水プールのほか剣道場・柔道場・トレーニングルーム・卓球場まである。特別教室では、理科実験室が地学まであるのだからすごい。

共働きの保護者に嬉しいのが、食堂。昼食以外に朝・放課後も利用できる。他校では中学生は利用できないところがあるが、城北では中1でも利用可能だ。

城北は古くからの財産に加えて、このところ新しい魅力をどんどん加えつつある。

